

日本選挙学会

2005年度第5回理事会

日 時：2006年5月20日（土） 12：05～12：55

場 所：上智大学 四谷キャンパス9号館3階 9-359

出席者：池田理事長、荒木、岩崎、岩渕、梅川、大山、河崎、川戸、川人、桑原、河野、神江、小林、竹下、田中、谷、玉井、中邨、平野、藤井、山田、和田理事、岡田、森脇監事、安野事務局長・今井・小林・堤幹事

議題：

1. 各委員会の活動状況について（各委員長）

①企画委員会

河野委員長より、2006年度大会について報告がなされ、大会関係者への感謝の意が示された。

②年報編集委員会

岩渕（21号担当）委員長より、紀要6号が刊行され、今週発送予定であることが報告された。併せて、慶應義塾大学出版会から契約予算では出版不可能との申し出があったことから、事務局から了解を得た上で、予定の予算を超過して執行したことが報告された。

続いて平野（22号担当）委員長から、『選挙研究』22号が国際性の低さを理由として、科研費の補助に落選したことが報告された。今後、年報の内容を検討していくに際して、こうした指摘を反映させていく予定とのことであった。また、22号に対し、3件の応募があり、うち2件が提出されたとの報告があった。投稿論文が少ないため、英語論文の掲載や、2006年大会で開催されるシンポジウムの内容を掲載することなどを検討中とのことである。併せて、紀要7号に論文3本、研究ノート1本の投稿があったこと、紀要6号に紀要8号への応募用紙を同封したことが報告された。なお、紀要の執筆要項の修正について検討中であるとのことであった。

③文献委員会

山田委員長より、業績目録が完成し、紀要6号に掲載される旨、報告があった。

④選挙管理委員会

大山委員長より、前年に執行された理事選挙の際に、選挙管理委員会でなされた議論が2点ほど紹介された。第一に、2～3票といった少ない票で当選した者がおり、票割りを行えば何人かを当選させられる可能性がある、第二に、投票率が低く、今後、投票率向上の必要性があるとのことであった。

2. 2005年度決算・監査報告の件（配付資料参照）

安野事務局長から、まず、2004年度決算報告において、印刷費に木鐸社委託販売分を

含めず、繰越金に入れる誤りがあった（木鐸社は委託販売による売り上げの 1/2 を手数料として天引きした後、選挙学会に印刷費を請求するが、その天引き分が決算報告では印刷費に含まれていなかった）ことについて説明があり、その後、配付資料に基づいて 2005 年度決算・監査報告について報告がなされた。また、岡田・森脇両監事から、2004 年度決算の訂正を了承した上で、2005 年度決算を確認した旨、報告があった。

3. 査読委員会の件

小林理事より、査読委員会案について、政治学会の規程などにも触れながら、その必要性について説明がなされた。政治学会で生じた博士論文が章ごとに順次投稿されるとの問題を防ぐためにも、学会誌への投稿論文の査読には継続性が必要とされるが、半減上陸方式の査読委員会を設けることで、こうした問題に対処することが可能とのことであった。また、投稿を年報編集委員会と査読委員会のどちらが受付けるか、年報と紀要の扱いを同じくするか別個にするか、査読委員を公開するか否かなどについて検討する必要性が指摘された。

これを受けて、池田理事長から査読委員会の設置や位置づけについて検討する必要があること、また田中理事から次期理事会で時間をかけて検討する予定であるとの発言があり、査読委員会を設ける方向で次期理事会へ申し送りすることとなった。

4. 入会申込者・退会希望者の承認について

安野事務局長から、12 名の入会希望者、3 名の退会希望者について紹介があり、それぞれ承認された。また、会費未納により 10 名が自動退会となることについて報告があった。

5. 年報バックナンバーの保管について

安野事務局長より、年報のバックナンバーは現在、杏林大学で保存しているが、これを新事務局で管理することが提案された。河野理事によればバックナンバーは各号 100 冊あれば問題ないとのことであったが、新事務局で最低限の保存冊数を決定の上、それ以上は廃棄もしくはトランクルームにて管理することとなった。

6. その他

①会費の納入状況について

安野事務局長より、539 名中 364 名（納入率 67.5%）が納入済みであることが報告された。

②その他

安野事務局長より、要約筆記について 3 名の協力を得たこと、経費は 2 日合計で 41,000 円となることが報告された。また、今後については、予算の関係もあるため、規約等を検討する必要があるとの指摘があった。